

平成28年度第2回協働事業評価会

平成28年7月8日（金）午後2時00分

本庁舎6階 第3委員会室

出席者：久塚委員、宇都木委員、関口委員、渡邊委員、衣川委員、竹井委員、伊藤委員、
高橋委員、加賀美委員、村上委員、吉村委員

事務局：地域コミュニティ課長、小宮山協働推進主査、勝山主任、松永主事

久塚会長 定足数の要件を満たしていますので、今から会議を始めたいと思います。

最初に、この資料の確認を含めて事務局のほうから説明をお願いいたします。

事務局 それでは、資料の確認をさせていただきます。資料1の①から③が協働事業評価書で、委員の皆様にお願ひした評価をまとめたものになっております。

次に、資料2が評価コメントの今後の調整方法となっております。

次に、資料3が新宿区協働事業評価報告書の構成ということで、報告書の前半、評価結果の前までの部分の案となっております。

それから、協働支援会議等開催予定の最新版をお配りしています。以上になります。

久塚会長 では、資料はどう、全部ありますか、大丈夫ですか。

では、議事に入っていきます。きょうは大きく議題は二つなのですけれども、一つは評価点の決定と、それからもう一つが報告書の構成を議事とさせていただきます。

協働事業評価書の資料1の①を見て、最初に新宿スポーツ環境推進プロジェクトですけれども、これについてまずは四角の中の文章といいますか、コメントについては今日は時間があればそちらのほうに少し入っていくとして。まずは、三つの事業について評価点を決定するというのが主な仕事ということになります。

最初のスポーツについての1番、これを②としたいのですが。

宇都木委員 ③に4人が集中しているけれども、やっぱり上と一緒にいけないうから、分かれているのだから。

久塚会長 ただ、①番に二つあるのですから。だから、③番でも構いませんけれども、②と③が四つずつあったら下のほうに振れるかなと思ったけれども、上に引き戻しているような要素もあるかなと思って②でよろしいですか。

各委員 はい。

久塚会長 2番。これが宇都木さんが先ほど言われた例に近いと思うのです。2. 5というのではないので③ということでもよろしいでしょうか、上に振れるのではなくて下に振れる。

宇都木委員 やっぱり明確な指示が、はっきり表示があるのを優先したほうがいいのではないのでしょうか。

久塚会長 後のほうで点数がうんと高くなりますけれども、ザッと見たら。では、②ではなくて③。

3ページ目をおあげください、3番、②。

4番、②。

5番、②。

6番、②。

7番の項目、②。

8番の項目、③。

9番の項目が③。

10番の項目が③。

そして、11番、③。

12番、これはコメントがあります、同じく。四つとも微妙ですね。

伊藤委員 ②の3番目が「地域スポーツ団体との幅広い連携ができるか、期待している」と、できていないのだから。

久塚会長 ご意見がありました、③番ということを案にしたいのですがよろしいでしょうか。

総合評価。

宇都木委員 最後まで期待を込めてという意見がありますが、Cの意見のほうに近いのではと思います。

久塚会長 総合評価はCだけでも、中に随分よい評価もありますので、期待を込めて頑張ってくださいということでCとしたいと思うのですがよろしいでしょうか。

各委員 はい。

久塚会長 四角の中のコメントについては少し時間をとって1番から3番までやりたいと思います。まずは点数を入れていきたいと思います。

では、資料1の②をごらんください。商店街ホームページ活性化事業です。1番、②。

各委員 はい。

久塚会長 2番の項目、②。

3番目の項目が②。

4番の項目が②。

5番が②。

6番が②。

7番が③。

8番が③。

8番が③。

9番が③。

10番が③。

11番が②。

12番が②。

総合評価がB。よろしいですか。

伊藤委員 はい。

久塚会長 では、三つ目、働きやすい職場づくりの情報発信事業の1番が④。

2番が④。

3番が④。

4番が③。

5番が④。

6番が④。

7番が④。

8番の点が④。

9番が④。

10番が④。

11番が④。

12番が④。

総合評価がD。ということでよろしいですか。

吉村委員 ちょっと意見を言わせていただいでよろしいでしょうか。情報発信の事業な

のですけれども、これについて厳しい評価が多いのですが、この前のプレゼンとヒアリングの状況は確かにあまり好ましくないと思うのですが、ちょっとそれに引っ張られていることもないかという意見は述べさせていただきたいと思っております。この1年間事業を見ていて改善もありましたし、多少遅れはありましたけれども、これも工夫しながら最後に情報発信の冊子もできました。

その後、また新年度に向けてそれを工夫してというところで、お互いの方針も見直しをして、確かに期待が大きいというのはわかるのですけれども、必ずしも全部Dというふうなことなのかなというのもありまして、そういうところは意見として言わせていただきたいなと思っております。

久塚会長 部長さんがごらんになって1番から12番までの分がございますけれども、その中で1年目から少しずついわば事業単体として見るのではなくて、前年度と比べることによって少しずつ工夫をしてきたというようなことも見られるということだと思うのですが、項目で言うと1番から12番のうちどの部分になるということがございますか。

吉村委員 まずニーズの1番なのですけれども、これは最初の採択のときから引っ張ってきているもので、そこにもうニーズがない、ニーズをとらえていないというふうになってしまいますと、この事業がそもそもどうだったのかということになってしまうと思っております。ですから、ワーク・ライフ・バランスがすごく難しい課題ではありますけれども、特に区が事業者に対してというところは、なかなかこれまでないようなものもありますので難しい面もありますが、そこを掘り起こしていこうという情報発信ということで目をつけたわけですので、ここはちょっと違うのかなとは思っています。

それから、確かに目標設定についても、その成果の取り方が確かによくないのですけれども、一つ項目を増やして工夫はしているところです。

それから、3番の協働の相手方への期待とその成果ということですが、1年目はなかなか進捗管理という面で区側もあまりよくわかっていなかったのですが、昨年度は毎月打ち合わせをしながら進捗管理を増やしてやっているところは、私はある程度担当として見ておまして、そのところは前年よりは、前年も厳しいのでその上がり方が少ないというふうにおっしゃられればそれはそれまでなのですけれども、前年より非常に努力の跡は見られたと考えております。

なかなか企業相手でアポイントの取り方とかいうところでうまく浸透しなかったのは、確かにあるということがございますけれども、工夫して一定の進捗、成果は見られたと思

っております。

それから、成果のところではセミナー等の参加者が自分の会社に戻ってそれを生かしていけるところまできちんと追ったかどうかというご意見があったのですけれども、それを要件に参加をさせるということになりますと、参加者自体がやっぱり少なくなってしまうということもあって、なかなかそこまで求めづらかったという面はあるのかなというふうに思っております。

それから、1年間の予算規模でセミナーと講演会を実施し、情報誌などをつくってというところの費用対効果等を考えると、一定の成果というものはあったと、期待どおりではないというのはもちろんわかっておりますけれども、1年目の反省のもとに2年目の仕様を考えて、それを着実に進めていくということはしているところは一応入れさせていただきたいなど。

久塚会長 そうすると具体的に言うと1番の項目と、それから3番ですか。

吉村委員 3番です。それから、情報の共有ですね。それから、役割分担もですけども、情報の共有は5番、それから6も。

久塚会長 1、3、5、6。

吉村委員 8の相乗効果は確かにまだまだというような感じに思っております。それから、満足度と具体的な効果というのは、まあ、これぐらいのところと私も思っております。

1 1番の今後の課題の把握と共有、ここも共有はしていると思っております。それから、改善すべき内容についても、これはしているというふうに考えております。

久塚会長 というご意見ですけども、どうでしょうか。竹井さん。

竹井委員 ちょっと事務局に確認なのでですけども、去年の評価したときの結果について、今言われた項目は評価が下がっているかどうかと見たときに。

久塚会長 ご質問があった点ですけども、全部の項目の点数、12番まででよろしいでしょうか。

竹井委員 はい。

久塚会長 去年どんなだった。5段階あって。すぐれている、適切である、課題はあるが、ほぼ適切である、不十分であり改善が必要というのが今の。

竹井委員 ああ、そうです。

久塚会長 ですから、単純に比べるとは難しいと思いますが、③番、③番、④番、③番、③番、④番、③番、④、④、④、④、③。

竹井委員 1番の今度評価が下がっているのですね。

吉村委員 確かにご視察いただいた講演会とあのヒアリングはよくなかった。低いというか、あれはそれ向けではないというふうには。

久塚会長 はい、伊藤委員。

伊藤委員 伊藤ですけれども、これで3年目です、これ。だから、もう後がなくなっているのだ。すると、スピードが遅いのです、結局。そこら辺にみんな引っ張られるのと、最終的なもの、先ほど部長が言われたように企業にアプローチは難しい。だけど、その前段階協同組合のようなネットワークがあって、いろいろ最初に設定されているので、もし個別企業に行くのが難しければ、そういう協同組合のところを期待したわけだ、ちょうど。

だから、ちょっと厳しい形になっていることと、あと最終的にこのつながりもセミナーや講演会はよくやっているのはわかります。それがレビューとしてその新宿区のワーク・ライフ・バランスにどうつながってきているのというところがやっぱり見えない。そうするとこれは個別、個別の積み上げでいって最終的な意見をまとめるのか。私はこの大きなところから入っていくべきだと思う。そうするとどうしてもいい点数にいかないのです。

個人意見が入ってしまいましたけれども、もっともっと最終の目的につながったところをレビューしてくれるとよかったのかなという感想。セミナー参加企業もどんな企業が参加しているのか。自分たちのもうやっているところ、例えばワーク・ライフ・バランスをもう推進している企業が来ているのか、それともしていない企業が来ているのか。していない企業が多ければ、ある程度そのセミナーだとか講演会は成功だと思う。

だけど、今まで推進しているところが来ているとすれば、いや、その企業の中で推進しているのならこの四つ、ワーク・ライフ・バランスで四つあります、地域の仕掛けで。今までは一つだったけれども、その来たところが二つ目ができた、三つ目ができたというところまでやってくれると本当にわかりやすいのだけれども。あいまいでもうわからない部分が非常にある。

吉村委員 皆さんに伝わっていないということは、ご指摘のとおりかなと今思っています。

伊藤委員 だから、そこがちゃんとなっていれば、もっとよかったのかもしれないのだけれども。

久塚会長 きちんとしていてやりづらいのですけれども、この点数は協働事業であると

いう意味では、もう部長さんのところの部とあそこの協働という形をとっていますが、あなたを責めているわけではございませんのでということが第1点。事業としてどうなのかということ。

吉村委員 私はということではなく、この1回の視察とヒアリング以外のところを見てきた立場として、もう少し私がお伝えできればいいですけども、というところでご説明できればと思って控えておりました。

久塚会長 例えば3番目のような項目というのはとても難しいと思います。協働の相手への期待とその成果というのが、協働である程度次年度からもうちょっとステップが上がったような形での評価が出てよかったのではないかなという思いがあるのだろうと思いますけれども、伊藤さんが言ったみたいに、そうであっても少し達成感がスピードを含めて1年目ではないのもうちょっとどうにかという思いが、それぞれの委員にあったのかもしれませんが。

確かに全体を見ると、3番目の項目というのが②と④に大きく分かれているので、これが③と④であれば④とスッといくでしょうけれども、二つ上の②番に二つ入っているというのは、部長さんがおっしゃったような評価をされた方が2人おられたということだろうと思います。

これは私の発言権で、似たような傾向にあるのが5番、③番のほうに2個あって、②番の一つという形なので、先ほどのものより少しトーンは落ちますけれども、これも似たような傾向にあって、委員さんの中にはより積極的に評価しようという委員が複数おられたということでは、したがって最終的にはこの希望を②とか③とかに入れる形になりますが、先ほど部長さんがご指摘になったようなところを踏まえた形でのコメントというのでも作成することが必要なだろうと。

④番だからネガティブなところだとということではなしに、そうでない方たちが先ほどの項目3とか5とかのほうには少し出てくるところがありますので、それらは丁寧に拾っていくということでこのコメント、四角の中を作成する際に生かすという形で入れましょう。

そちらに配慮するというか、最終年のところで、だめだった、だめだったということではないようにやろうかなと思っています。持っていた力を十分に発揮したかどうかは別として、それなりに進めてきたという。大きな団体を進めてきたというのをうまく表現すると同時に、課題が大きく残されているという、うまく報告書をつくるというふうにしたい

のですけれどもいかがですか。

宇都木委員 だから、本当にこの協働事業を、今回の提案のこの事業をどこにどう注意してやろうとしているのかということをちゃんと明確にして、わかるようにして取り組んでいるのかというのが、この事業に対する姿勢だと思うのです。やっぱりそこがどうも見えないからこれでいいのかなということになってしまうのだと思うのです。

それは大変だということはよくわかっています。そんな簡単にできることにならないです。思わないけれどもそこにだからこそ、そこに僕らの言葉で言えば切り込んでいく姿勢というものが大事なので、そういうところが見えないとなかなかみんなが、ああ、そうだなというふうに思えないのではないかな。それは簡単だとは思いません。

関口委員 ちょっといいですか。結局、同じことを繰り返しているのですもの、指摘されたことを。ほかの事業でもみんな苦しい330万でやっているのですから、それを。そこはもうちゃんとこういうのを、ほかの方が書いていましたけれども、担当課からちゃんと団体に伝えてほしいです。

吉村委員 そんなことはないです、ちゃんと言っています。

関口委員 だとすれば、ちゃんとしっかり言ってあげて、無料セミナーで9名しか集客できないとか、それはちょっとあり得ないです。まじめにやっていたら電話かけするでしょう、その名簿にある過去のセミナーの参加企業とか。だからやっぱり薄々感じてしまうのです、ほかの方は知りませんが、何かこの事業に熱意とか、ほかの2事業には何か新宿で頑張ろうと、新宿区のために何とかやろうという何か熱意とかハートが感じられるのですけれども。私は少なくともそうだったので、ほかの方の今日の評価はどうなのかなど見ていたのですけれども、おおむね皆さん同じ印象だったということでしょう。

久塚会長 自分たちもやっぱりそこをうまく担当部局を含めて働きかけが少なかったということになるのだらうと思いますので、そこを踏まえて報告書を作成して。

吉村委員 皆さんのご意見を聞いて、いろいろなご意見、厳しいご意見に対して誠実に応えていなかったなということは、それは何となく感じましたので、そういう意味で私、これまでの対応の中でやっぱり皆さんと同じような感想を持っているなというのを一緒に書かせていただいたというような感じがします。

久塚会長 部長もですよ。そういう思いと、やっぱり自分たちが一生懸命一緒に3年間やってきたという思いと、それからやっぱり働きかけてうまく機能してくれたらよかったなという思いも、発言の中には出てきませんでしたけれども、そういう思いもあったの

だろうなと思いますけれども。

よろしいですか。

吉村委員 結構です。

久塚会長 では、最初に拝見した形の結論として、そして報告書を作成する際に丁寧に作成すると、ここだけ3年目で事業が終わったというような、終わりの年であるというようなこともあって、ただ自分たちが採択した事業の終わるというような意味で報告書を書かなければいけないので、選んだけれどもよくなかったみたいな単純な話ではなくて、私たちの協働事業を進めていく際の考え方などを含めて報告書ができればなと思いますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

では、少しだけ時間をとって、この1の①から1の③までございますけれども、四角の中を少し。これはきょう答えを出すわけではないよね？

事務局 はい。

久塚会長 きょうコメントがあったり質問があったりしたらもうという方向です。では、15分ぐらい時間をとれますので、1の①とか1の②とか特定しながら、自分が書いたかどうかは別として、この表現方法についてちょっと発言があるというようなことがあれば、最終的には事務局でまとめ上げていく、そのまとめ方については後ほど事務局から発言していただきますけれども、3時ぐらいまでの間にどれからでも結構ですので特定させて発言をしていただければと思います。1の①から順番でなくても結構です。

宇都木委員 商店街のホームページの部分も、これも報告をするのにホームページをつくるのは順調になったというふうに思えるのです。私は専門家ではないけれども、要するに目的に向かってどの程度の密度であるかと、技術的に進歩しているのかなんてよくわからないのですけれども、やろうとしていることの域はそれなりに一生懸命やって進んでいるのだなというふうに思いますが、ただその商店街の活性化という問題に何かもうちょっと意見を出さないと、ホームページがいいのができ上がればそれで即商店会が活性化するわけでもないだろうから、そこをどういうふうにつなげていくのかという、このことによって。これをつくることで商店会との話し合いだとか、個別商店と話し合いできているのしょうから、それがうまくつながっていくようにと思うのです。

それから、もう一つは多分、新宿区も商店街の活性化だとかにかなりいろんなことで長い歴史があるのだと思うのです。今も何か助成金を出して何かやっていると言うのだけれども、だからそういう行政がこれまでやってきたことと、それからこの今度の事業を通じ

で活性化をしようとしていくその目的に向かってどう、過去のことも含めていろいろ清算して考えて組み立てていくのかということは、ちょっとそこも少し議論してもらったらいいのではないのかなと私は思いました。

だから、商店街がホームページで活性化するという確証があるわけでもないし、この前聞いたらやっぱり商店街の人たちは高齢化してしまって新しい技術がついていかないと。そうすると、いいのをつくったのはいいけれども、そこから先、この3年間やってきた事業がどう次に展開していくのかということが、やっぱりかなり問題としては残るのではないかなという気も、この前の話を聞いていて思うので、そういうもう少し総合的に商店街の計画を今度の事業とどう組み合わせしていくのかということ、残された時間の中でそれに取り組むというか、そういう視点で事業を進めていってもらったらいいのではないかなという気がしました。

久塚会長 総合評価のところですね。事業までの項目というよりは、大きなくくりでその商店街の活性化に向けたホームページの活用という、ホームページをつくるだけではないよということを含めてのポイントだと思うのですけれども、そういうことが必要になるということですかね。

伊藤委員 結構そういうのが多く書かれています。私もこのソフトというか、簡単でいいと思う、やっているのは。「新宿ルーペ」でそのまま入っていけるから、「新宿ルーペ」という言葉だけあればいいわけで、先ほどそれで完成版になったときに、それが更新されていくということと、それで私がだからできるではなくて、携帯というかスマートフォンを使っている、あんなのを持っている人だったら簡単にできますよということ。

商店街でそういう勉強会をやっている。地域住民に対してオペレーションのというか、「新宿ルーペ」の入り方というのをやっている。要は、そういうふうにし唆されているので、そういうような先行しているところの商店街の例を書いているのだけれども、水平展開してほかの商店街でやって、その商店街同士で話して、いいところ、悪いところ、ここをこう変えたらいいとか1回やるといいようなことを書いていくのだったら。

結局できたものに入ってくれないと何もならないし、入ることによって地域にこういうお店があったのだ、こんなテレビにも出るような店があったのだとか。そうすると、そこに行ってみようかなと思うし、だからこの活用というか、入り口から入っていく。「こんにちば」と入っていく、そこが重要なところだと思う。そこは考えてくれとは言っているから、強調する必要があると思います。

宇都木委員 あれほど熱心にホームページだとかそういうのをやらなくても、長い歴史があるから巢鴨のお地蔵さんなんかは毎月四の市には身動きとれないほどいっぱいになるのです。ああいう商店街のつくり方をしたところ、お地蔵さんを中心にして地元は。だから、それがいいかどうかは別にしても、今度は何か新しい切り口でそういうどこか幾つかのモデルになるような商店街ができ上がったら、それはそれでいいと思うのです。

ホームページをつくる人たちは物すごく熱心で一生懸命やっているけれども、その地域社会でのずれがどうしても出るから、そこをどう埋めていくかということをやらないと、なかなかうまくいかないのではないかなという感じがしましたけれども。

久塚会長 商店街の近くに住んでおられるとなかなか思いませんが、衣川さんは何かございますか？

衣川委員 「新宿ルーペ」だけではなくて、それをしていることをお知らせするような手段がもう一つあったら商店の活性化、商店の方と地域の方が行き来するようになることが結局地域の活性化だと思うので、ホームページをつくるだけ、それでじっとしているだけだったら、それ以上のことをこの方たちに求めるのはちょっと難しいかもしれないと思うのですけれども、かわりを持っている商店会の方々がもっとホームページを活用しようと呼びかけていただいて。これをやることで活性化してほしいとそこまでは思っているので、ここの評価はちょっと違うのですけれども。

久塚会長 発言してもらったのは、そういう実際に何々商店街のところを知っていたり、具体的な例があって、今のような発言をもらうとこの文章というのも少しバラエティに富むのかなと。

竹井委員はどう。あまり特にどうこうということではなく、今のような発言はありますか。

竹井委員 そうですね、私の家の近くに、今回は商店街だったのですけれども、あの中に荒木町の話とかも結構書かれていて、荒木町はお酒を飲むところが多いところなのですが、その中でもいろいろ紹介とか書かれています。地元の人は今までにないタッチのホームページなので、拝見したりしてそれでやっぱり行く機会も増えているので、少なくともホームページというだけではなくて、あれが一つの取っかかりにはなっているのかなと私の周りは感じた状況です。

あの人たちも言っていたのですけれども、確かに我々としてはもう少しやっぱり発展してもらいたいというところがあるのですが、あの予算の中であれだけの規模でやっている

のかなというのが正直なところですし、そこまでやって意外に我々が期待していた以上の効果が、私の周りでは少し出てきているのかなとは感じています。

ただホームページをつくっている、確かにいいことをしているのですけれども、まあ、そこそこはやっているのかなというところは感じました。

久塚会長 1年目のヒアリング、それから結果に対してよく展開し始めたなという印象は1年目から2年目に。

宇都木委員 うん、そうですね。

久塚会長 だから、その後自分たちが何を課題とって、どこをつつけばこうなっていくという勘みたいなのがひらめいて、そっちに動いていけばいいかなとは思いました。

スポーツのほうももうちょっと何か工夫はあったかなという、私自身は1年目がああいこう感じだったので、少しあの人たちも忙しいのだろうなと思いながら、ワンパターンになりつつある気はします。

伊藤委員 一言いいですか。今の商店街の件なのですけれども、結構有名なところというのは長い歴史がある。長い歴史の中で今の形があると言ったほうがいいのか、例えば南砂だとか大山だとか、それから上十条だとか。どんな形態かという、核になる店というのはないのだ。大きなスーパーが出ているわけではないし、個店の特徴ある集まりだからみんなが来るのだ。

だから、あの皆さん、あの商店街の人たちというのは、そこに大きなものを持ってこようとか考えていないから、やりたいことを本当にいい、活性化させる商店街ができると思っている。先ほど宇都木さんが言ったように巣鴨だって大きなものは別れない。みんな個店がそれだけの特徴を持ってやっているということだから、そこを今の「ルーペ」の中で主張していく。それで、先ほど私が言ったようにみんながアクセスする。では、見にいこうとか。そうなることが一番大事だろうな、入り口として、商店街活性化。

久塚会長 はい、ほかに。渡邊さんも割に近くに住んでいる。

渡邊委員 新宿のあの商店街の活性化というのはものすごく深い考えで、この事業そのものはホームページを活性化しようという。事業そのものというのは、すごく努力が感じられて、前進もしていて、そのことと新宿区の商店街そのものの活性化というものは、ちょっと微妙に私はもちろん同じと考えられないぐらいすごく深いものだというふうに思っているのです。なので、商店街ホームページ活性化事業においては、従来のようなひたすらデータを蓄積していくのはぜひともずっとできるだけやっていただいて、あるとないと

では大違いなので、やっていただく以外にはないなと思っている。

衣川委員 ちょっとさっき言葉が足りなかったのはこういうことかと。ホームページ活性化事業としてはよくやっていたらいいんですけども、それをいい形で生かすような皆さん、周りの協力というのがすごく必要で、特に「新宿ルーペ」という言葉をもっとみんなに聞こえるようにしてあげるとか、「ルーペ」に登録したら登録したお店にシールを張ってあげるとか、「新宿ルーペ」とは何というふうにみんなが思うような、その言葉が目に入っていくようなことに対する協力を周りがしてあげないと、その商店街の活性化とホームページがあまりリンクしていかないなと思って。

見る人はホームページを見るけれども、見ない人もやっぱりいるので、ホームページがすごくおもしろい、お花屋さんのおじさんのように年配の方でも、ああ、「ルーペ」とは何と、ただそこに触ってみようかということに、いろんな活性化につながっていくことだと思うので、その周りがもっと協力してあげないと、このせつかくやったことがうまく発展していかないなと思っています。

久塚会長 商店街も難しいです。交通のアクセスがたまたまあったり、働いている人たちが行き帰りに通ったりということによるみたいなものも出てくるので、伊藤さんが言ったように個店というか、一つ一つのお店がという部分だけでも、商店街というのは全体で見ての雰囲気みたいなところもものすごくあるのです。

若い人たちが見てどう見えるか、高齢者の人たちが見てどう見えるか、それぞれあるので、いいねという感じのところと違う形になっているところがある。衣川さんが言ったようにホームページというのと活性化というのをどうくっつけていくかということの発想が。

ただ、問題はあの商店街の活性化ということの課題として出てきた、投げられたもので、それでホームページというのがかくっついているから、やっぱり切り離して評価というのはなかなか難しい、セットにしないと。

ほかにありますか、よろしいですか。

では、最初に形のところからいきましょう。資料2をごらんください。黒のところと青のところ、皆さん方、評価の文章のコメントをいただいているんですけども、それを最終的にまとめていくときに、一つにしていく作業工程を出しているのがこの黒の部分というふうになります。

こういう作業を通して最終的に進めるという手順に入るわけですけども、よしあしも何にもないわけで、頭の中で自然にそうやっていることを見える化しているだけなのです。

これについては特にご意見がなければそのまま進めていいですね。

各委員 はい。

久塚会長 では、これで作業を進めさせていただきますので、今後の流れは？

事務局 では、資料3からのご説明をしてもよろしいですか。次第の(1)のイの協働事業評価報告書の構成についてというところで、ご説明させていただきますので、資料3のほうをお手元にご用意ください。

こちらのほうが今回評価していただきました実施2年目、3年目事業計3事業の評価報告書の構成ということで、基本的には昨年度までの評価報告書というのをベースにつくらせていただこうかと考えております。基本的な項目の変更としましては年度です。27年度を28年度にさせていただいたり、実施2年目、3年目というところで修正させていただいたりしたところが主な修正点になっております。

1ページをお開きいただきまして、評価委員の名簿のほうを平成28年度の評価委員の方々の名簿に塗り直させていただいております。

もう1ページお開きいただきまして2ページ、3ページのところのご説明をさせていただきますと、2ページのところが「新宿区協働事業提案制度による協働事業の評価を終えて」というところになっておりまして、こちらは会長のほうのコメントとなっております。下段のほうに〇〇〇〇部分があるのですけれども、こちらにつきましては今年度の評価というところを踏まえまして、会長と事務局のほうでご相談しながらつくり上げさせていただきたいと思っております。

3ページ以降につきましては、冒頭申し上げましたとおり年度の変更ですとか、今回の協働事業の事業名等の変更になっておりますので、特に赤字等で記載はしておりませんが、そのように事務局のほうで修正させていただきたいと思っております。

続きまして、4ページが評価の手法です。こちらにつきましても基本的には昨年度までの評価報告書の流れと同じになっております。5ページが評価に当たっての着眼点ということで、皆様に評価していただきました着眼点を載せております。こちらは2年目、3年目の評価になりますので計画、実施、結果というところが入っております。そして、反省と改善になっております。

6ページにつきましては、評価の対象というところで、今年度の3事業の評価に当たってのスケジュールなどを載せているようなページになっております。こちらのも今年度のものに修正させていただいて載せております。

7ページからが協働事業評価実施事業ということで26年度採択の実施2年目の2事業、25年度採択の実施3年目の1事業を載せさせていただいております。こちらは基本的に事前確認書の内容をもとに転記させていただいているような内容となっております。

それ以降のページにつきましては、今回皆様に評価をいただきました実際の評価結果というところで、いただきましたコメントや今日のご意見等を踏まえまして、事務局のほうで評価報告書の意見をまとめさせていただくようなつくりとなっております。

事務局のほうからの説明は以上となります。

久塚会長 それでは、1年目についてはヒアリングが待っている状況ですね。合わせて最終的にはそれはいつでしたか。

事務局 本日お配りさせていただきましたこの開催予定も合わせて今後の評価報告書の作成の流れについてご説明させていただきます。事務局のほうでいただきましたコメントをまとめまして、第3回の協働事業評価会の際に評価報告書の案としてご提示させていただきたいと思っております。第3回の評価会では、そちらの評価報告書の案をもಂಡいただきまして、第4回の協働事業評価会で最終的に確定させるような流れで考えております。

久塚会長 はい、エンドのところと言うと7月29日に作成と、もう一つが8月4日という形になりますので、それが3回、4回で、次のこの会議は提案審査会というふうになって、一次選考が7月22日にあるということになります。よろしいですか。

では、そのような流れで進めていきたいと思えます。

では、事務局、終わっていいですか、大丈夫ですか。委員のほうから発言ございませんか。ではきょうの第2回協働事業評価会を終わりたいと思えます。お疲れさまでした。

事務局 ありがとうございます。

— 了 —